



Akio Kondo
近藤 彰郎
 学校法人八雲学園 理事長
 八雲学園中学・高校 校長

生徒が活躍する未来を見据え、 男女共学化を決断。 伝統に革新を調和させる

**真の男女共同を実現するために
 2018年4月共学校として再スタート**

八雲学園では創立当初から英語教育、女子教育に力を入れてきました。移民としてアメリカで働いていた創立者が語学で苦労したこと。また帰国後、女性の教育力向上の必要性を痛感したことが理由です。以降、時代の要請に基づきながら、しっかりと女子教育を行ってきました。

一方、生徒が活躍するこれからの未来を見据えたとき、真の男女共同を実現するためにも若いうちから共に学ぶ必要性も感じてきました。男女の違いを特性としてとらえ、互いに尊敬しあえるような人間関係、さらには弱者に対して優しくできる人間性を形成するために、どのような教育環境が適しているか。熟慮の末、創立80周年を迎える2018年に共学化し、再スタートを切る決断を下しました。私個人としては、民間から教育界への転身、中学校再開による中高一貫校化に続く、第三の重い決断でした。

意外にも関係者から直接的な反対はありませんでした。本音としては不安や驚き、寂しさはあるでしょう。しかし、新しい時代を切り拓き、発展していくために決意を受け入れてくれたのだと思っています。そして、その思いが変革へのエネルギーになっていることも感じています。

**進路指導、グローバル教育、文化体験、
 チューターを4つの柱として進展させる**

伝統と革新をいかに調和させるかが最大のテーマです。そのため「進路指導」「グローバル教育」「文化体験」「チューター」の4つの柱は継続して進展させていきます。特筆すべきは、高1で実施する「9カ月プログラム」。カリフォルニア大学サンタバーバラ校で250時間かけて4技能を鍛えるうえ、3カ月ずつの事前・事後学習をあわせて9カ月におよぶ英語漬けのプログラムです。もともとエール大学との交流等で刺激を受けた生徒の要望により4年前に始まったもの。本校には既に、中3時に実施する2週間の海外研修や、高校生希望者対象の3週間プログラムがあり、「長期研修が受験勉強に悪影響を与えないか」という懸念もありました。しかし、学びの動機付けや自律した学習習慣にもつながり、実現させて良かったと心から思っています。今後は希望者対象に1年間現地滞在留学プログラムも準備していきます。一方、研修先で痛感するのがプレゼンテーション能力の差です。現地の生徒が堂々としているのに日本の生徒はどこか消極的。けれど、日本人も準備さえすればできるのです。つまり、そうした教育を受けていないだけ。そこで、問題解決型学習とともにプレゼンの機会を増やす授業改善を行っているところです。

担任以外に担当教員が付き、思春期の悩みにどこに対応するチューター制度についても、女子教育において効果的でした。共学化後も学習アドバイザーとしての役割を増やしつづ継続していきます。この他やるべきことは山積みですが過大な心配はしていません。生徒一人ひとりをしっかりと見つめながら、最適と思われる対応をその都度全力で行うことも、これまで通りです。